

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

號一三第・日七十月五輯編局報情

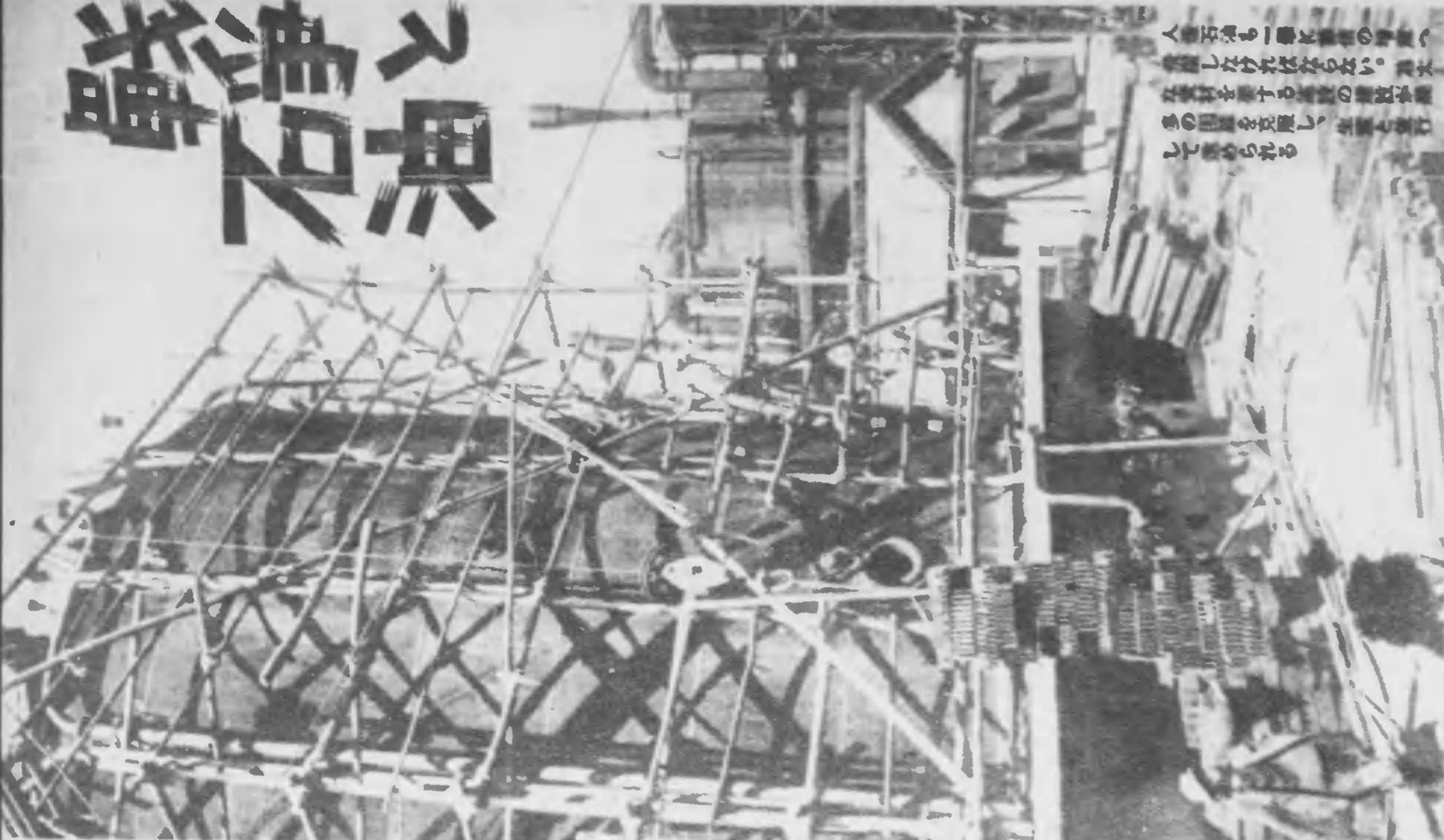
真風真報

札立の時

飛行機の増産は三倍に五倍に躍進する
 なか、油の増産も追いつかなかつたら
 飛行機にも、軍艦にも、船にも、戦車にも、
 工作機械にも、断じ切らぬのは
油は正命の血液だ
 飛行機も、軍艦も、船も、戦車も、
 工作機械も、断じ切らぬのは

腹一ツツをこめて内へ
 〇真油からそれへの目的地へ
 向つて送られるトラスの山

戦と石油



人畜石油も一應に備へるべき
（左）石油を運ぶトラックの隊が
多の困難を克服し、主要な輸送
として認められる

石油は航空機、艦船、戦車、自動車等へ動力源として絶対不可欠の物であると共に、また潤滑油として航空機、艦船、汽車、電車、自動車、発電機、送電機、電機機等は勿論、工場のあらゆる機械装置の運轉にはなくてはならないものである

實に燃料または潤滑油としての石油がなければ航空機も飛べなければ艦船も走れず、汽車電車、自動車も全然動かさず、大砲を發射することもできなければ、計器、時計等もまるで役に立たなくなるのである。また、単にこれらのもの、運轉が不可能になるのみでなく、製造することもできなくなるのである。實際切削油がなければ、如何なる工作機械も作業はできない。また、石油がなければ、塗料、印刷インキの製造さへも不可能になる

から考へると、石油は戦争に不可欠であるといふ位のものではなく

航空機、艦船等兵器の増産に並行した量を確保すること

いふことが戦争に勝たせし絶対の要件であるといはねばならない。實際、如何に多量の飛行機を造つても燃料及び潤滑油としての石油の確保がこれに追いつかなかつたならば折角の飛行機も飛び立つことができないわけである

まづ、燃料や潤滑油としての石油は甚が重要である。と同時に質的にも優秀であることが必要なのである。丁度、飛行機が量的にと

同時に質的にも優秀であることが要求されるのと同様である。事實、航空機燃料としては、よくいはれてゐるやうに、性能のよい、オクタン價の高い航空機燃料が必要であつて、機體發動機によつて差はあるが、八七オクタン級の航空機燃料と、一〇〇オクタン航空機燃料とでは、その出力において、二割以上の差があるといふ。換言すれば、速力において二割以上早くなり、燃料消費量において二割方の節減となり、従つて、それだけ航空距離を伸ばし得るわけである。例へば、八七オクタン揮發油で時速六〇〇キロ飛べる戦闘機は、一〇〇オクタン揮發油を使用すれば時速七二〇キロ以上となるわけである。艦船戦車等においても同様なことがいへる

潤滑油となると、その用途の性質から、製品の種類、品質は更に重要性を増してくるのである。航空機用潤滑油、機械の高温、高速高壓部に用ひる潤滑油、計器精密機械用潤滑油等は、その粘度、凝固點、引火點、安定性において優秀でなければ、航空機、汽機、計器等を十分に、正確に運轉測定せしめることができないのである

しかし、飛行機をはじめ、兵器の増産が果されようとしてゐるとき、これに伴ふ多量の石油を緊急に確保することが何といつても必要な問題である

前世界大戦において、ドイツは東部戦線で強大ロシアに城下の脅をなましめると共に、西部戦線ではその精銳により佛軍をパリ郊外

まで進路に展開しながらも、あと一息といふところで石油その他の後援がつかず押し切られ得なかつたのである。これに引か、フランスは首都パリを包圍され、石油不足のため手をあけるほか施す術なしといふ窮狀に立ち至つたときの大統領クレマンソーは、『石油の一滴こそ血の高である』と米國大統領ウィルソンに書き送つて石油の救援を乞ひ、その補給をうけて一舉に戦況を逆轉せしめ、戦争を獲得したことは有名な話である。石油潤滑のため、あまた精兵の活躍をとり、敗戦の悲運を喫したドイツとしては今次の大戦にこの前轍をふむことのないやう、石油の質量的補給に萬全の措法を講じてゐるやうである

大東亞戦争も石油問題を契機として勃發し、現に石油

を重要問題として戦はれてゐるが、この間の事情を回顧してみよう

(一) 昭和八、九年頃は支那、暹羅、菲島は勿論、南洋までにも陸軍用タガを利用し、機外のドライブは文化人の教養の一つであるかの如き観を呈した。いはゆる田舎遊藝時代で、これはわが國に對する米英石油禁輸政策の現はれで、これによつて米英は日本の石油産業、ひいてはわが國防強化を殺戮のうちに構みとする。兵に日本の精神力を物質文明で離れせしめんとした運轉だつたのである。かういふ状態を放置するときは、石油産業の育成、ひいては國防の強化は不可能になるので、昭和五年政府は石油法といふ法律を出して、國防の要地から、わが國で石油を輸入し、販賣する商社は、國內に一定数の石油を貯蔵する

義務を定めたのであるが、外國商社は本邦合にも貯蔵義務を履行しなかつたのである
(二) 昭和十四年、米國は日米通商航海條約の一方的削減方を通告して、わが國が米國に期待してゐる重要物資、特に石油、鋼材、工作機械等の對日輸出禁止を以て日本を威嚇し、謂いて昭和十五年人畜石油禁輸、石油精製機械等の實質的輸出禁止（いはゆるモラル・エンバラー）を行ひ
(三) 昭和十六年春になると、航空機燃料、高純度潤滑油等の輸出禁止を行ひ
(四) 十六年夏にはわが國に對し、食糧禁輸を行つて、石油をはじめ、あらゆる物資の全面的輸出禁止を以て對日侮蔑戰を挑んで来たことは我々の國裡に生々しく刻み込まれてゐるところである
昭和十六年十二月八日、宣戰の大詔が發せられるに當り、日米外交交渉の経緯に關する政府の聲明中にも石油を纏る交渉の末は一段と時車されたのである。いひかへれば米英は日本の石油を潤滑せしめて日本の優秀な艦船、航空機、戦車等の兵器は勿論、汽車、電車、自動車、漁船、工場の機械装置、時計等まで、

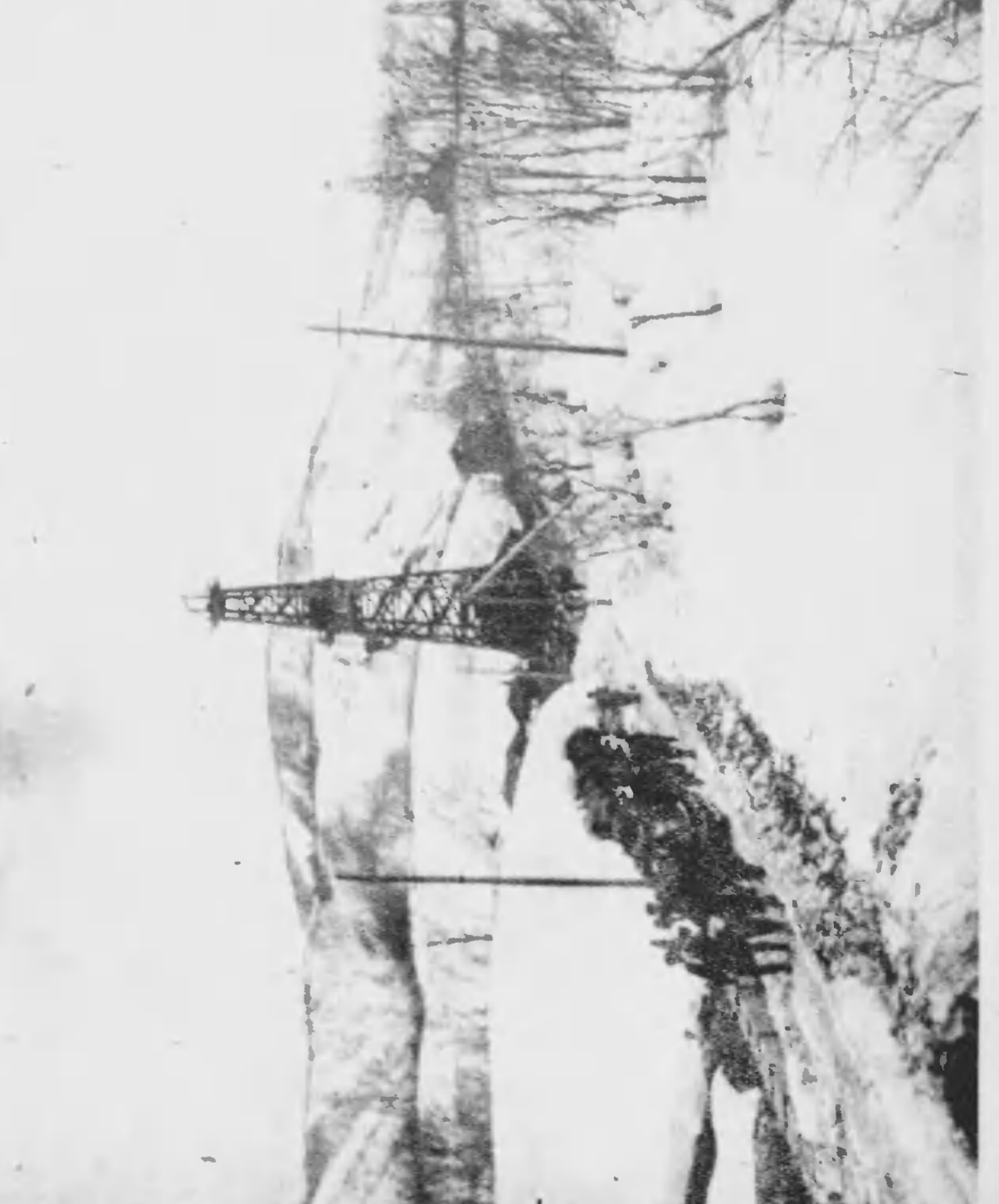


その運轉を停止せしめんとしたのである。しかも、かういふ大謀略が平和の美名の下になされたのであつた。實にわが國は米英より他ならぬ石油によつて毎毎挑戦をうけたのである。我々は斷じて同じく石油を以て敵米英を屈辱せしめる闘魂と準備を持たねばならぬ。幸ひにして皇軍の餘々たる戦果により南方石油資源は確保されたが、激増する航空機、艦船に眞實の燃料潤滑油を多量に供給し、肥豚米英を降服するためには、更に積極的に石油の増産増進をはかる必要がある。石油關係者は勿論、一般國民もあけて石油の重要性をよ認識してその持場、立場において石油の戦ひに挺身しようではないか

軍需省



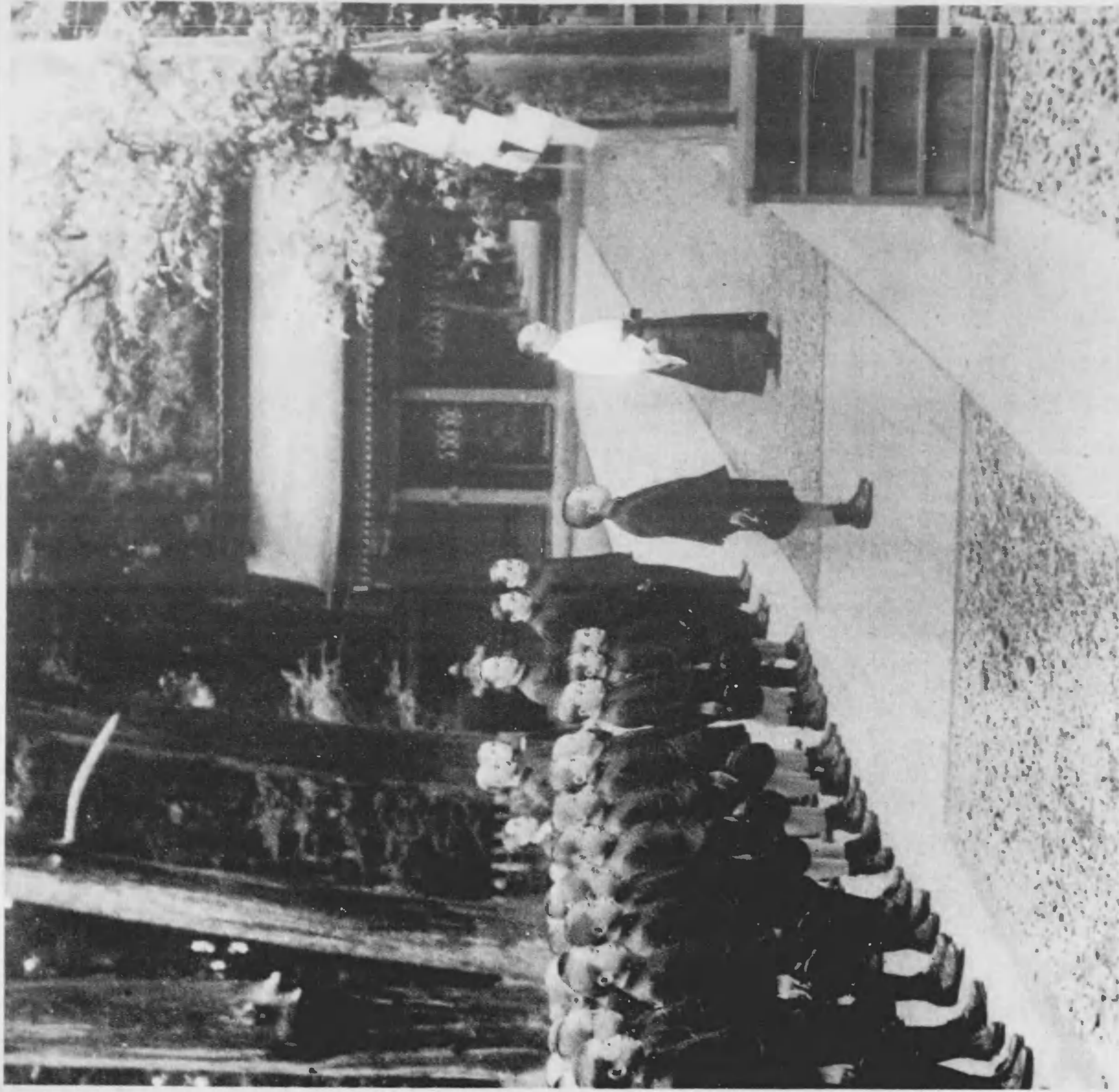
秋田鎮山學校
下野の雪をよそに塔に埋もれる
深達二十メートルの東北の山の油
田に採掘する人々



國神社のほとり、古澤將軍野の松林に圍まれたすがくしい校舍、ここに帝國石油秋田鎮山學校がある。この思はれた校舎のなかで、約四百名の生徒たちは開山天皇の雄姿を仰ぎ、崖物川邊に林立する油井の構を見つゝ、石油に關する一切の知識を備へ、心身を鍛錬し、そして一つと實地の技術を磨いてゐる
この學校は現在帝國石油會社の經營で、普通科と高等科に分れてをり、大いた國民學校高等科學了程度のもが普通科に、中學校卒業程度のもが高等科に入り、一年間修業して毎年三月に卒業する。卒業生は今日までに八百五十名を超え、その殆んどが現在南方の第一線で活躍してゐる
この學校の特徵とするのは徹底した軍國式教育で、在學生すべてを寄宿舎で養育させ、階級三名がこの教育にあつてゐる
やがて南方に飛來する日、先軍の後に續く日となつて、彼等ははち切れさらな進軍の旗を育成してゐる
石油潤滑油の製法方を模範で教ふる石油技術者の部

皇太子殿下御學友と

鹿島神宮に御参拜



風城が五月三日、四日の兩日、良くも皇太子殿下には、香取、鹿島兩神宮に御参拜あらせられた。殿下にはまた、海軍航空隊に成らせられ、若鷲の日常生活と訓練状況を御見學、

さらに参謀長などの實戦を御感銘深くきこしめされて、同隊内に御一泊、御機嫌よく還啓遊ばされた

読



御貸下げ農園に感謝の献入れ

食糧増産によけきせ給ふ有難き恩召の「御貸下げ農園」に、開業農家の各國民学校児童等は五月一日感謝の献入れを行つた。懸命なヨイコの努力が實る秋が待たれる

ヨイコの姉さんが給食の献ひ

學校給食で先生も一緒に仲よく御飯を喰くとになつたが、日本女子大附屬豊明國民學校では上級の生徒が小さいヨイコの姉さんになつて、かひなくしく献ひをしてみんな仲よく學校を家としてゐる



週間點描

指揮官先頭、傳統の精華を顯現し、古賀聯合艦隊司令長官機上りに列職せられ、良くも赤帥府に列せらる。豊田新司令長官と兵に一俵で討たん山本、古賀兩元帥の仇

戰艦三十五回、實に敵艦十七隻を撃沈、敵機六四二機を撃退せしめし駆逐艦長山田謙少時、二階船進級の尊命を拜し、無敵のその殊勲奉車に布告され、水雷戦隊の華と咲く

新舊黄河を渡り、わが北支部隊は重慶直東の湯恩伯東十師師を西南に覆滅せんよす。印緬に補給路を断たれた東亞の痛重慶の命脈、いよく迫る

夫人を獄中に囚死せしめたインド收買、該弱獲たしきガンジー翁を釋放す。インパール平原のわが重砲弾の轟音と湧きたつ民衆の聲に狼狽せる政敵の窮策、寧ろ笑ふべし

麥の收穫を目前に、小麥種、麥粉當り十一円、大麥七円五〇錢の供出獎勵金交付、麥類の代替供出、自家消費と自由消費認められ、農家の食糧糧食路拓かる

野球、庭球を返上した生徒、一週六時間の訓育で工場に戦ふ。食事も戦費も工員みなに受け備へつゝ、娘はん、決戦教育

寫眞提供(五十番) 朝日新聞社 朝日新聞社 毎日新聞社

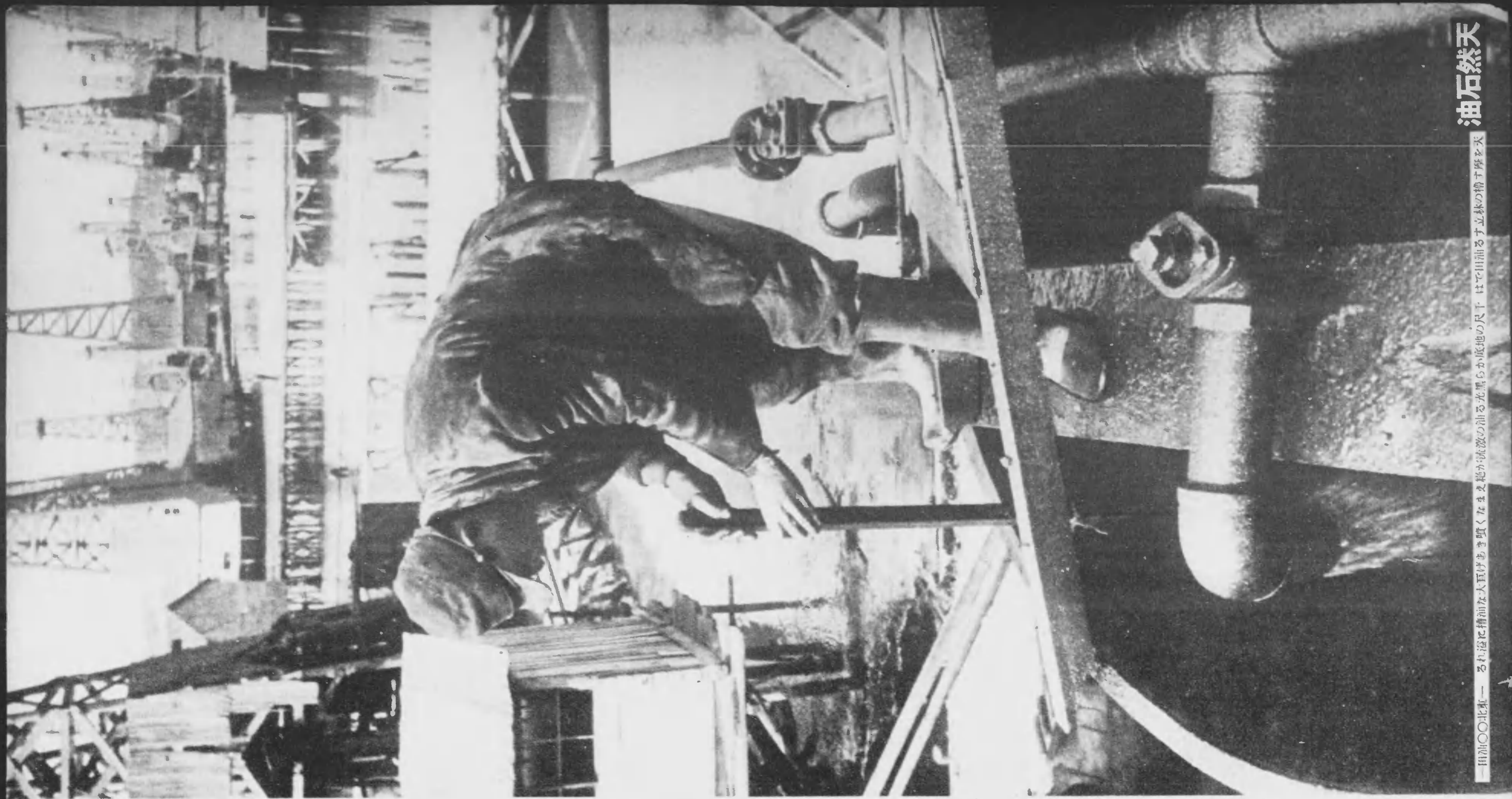
兵器に油を

南方のわが油田では勿論増産に必死の努力を傾けてゐる。戦前の調べによると、荷属東印度の石油産額だけでも約八百方トン、世界第五位を占めてゐるのだから、戦前のことを考へれば一應頼母しい限りである。

しかしこの石油は敵潜水艦の跳梁する幾千キロの波濤を越えて運んで来なければ、現地で消費するものを除いては戦力とはならない。しかも、石油を運ぶ油槽船は十分とはいへないのに、石油需要量は

日一日とふえるばかりである。年産一億八千三百万トン（戦前）、世界総産額の六割以上を獨占する敵アメリカですら、その莫大な飛行機、艦船等を動かして行くには懸念の増産を以てして、なほかつ石油不足を訴へてゐるのが實状である。

勝つためには兵器の量を、と同時に兵器の量に追いつく油を何としても確保せねばならない。内地の油田も、製油所も、人造石油工場も、増産に必死だ。断じて勝つ努力はこゝにもある。



天竺石油

天竺石油の増産に努力する。天竺石油の増産に努力する。天竺石油の増産に努力する。

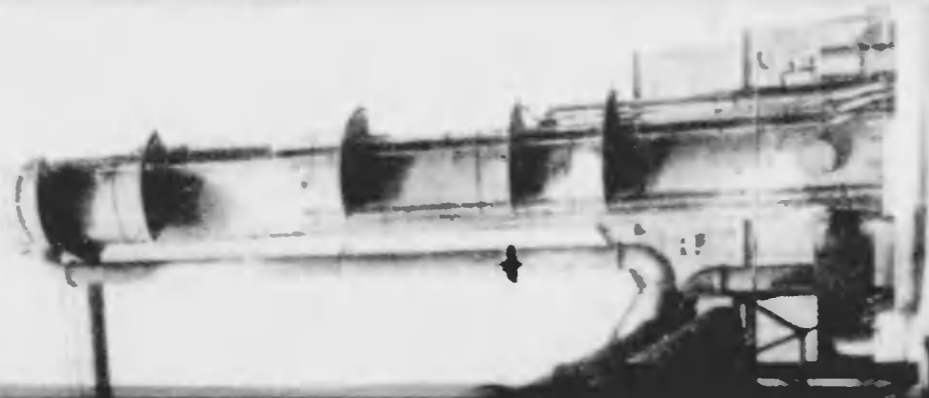
人造人



ガスを合成するための装置



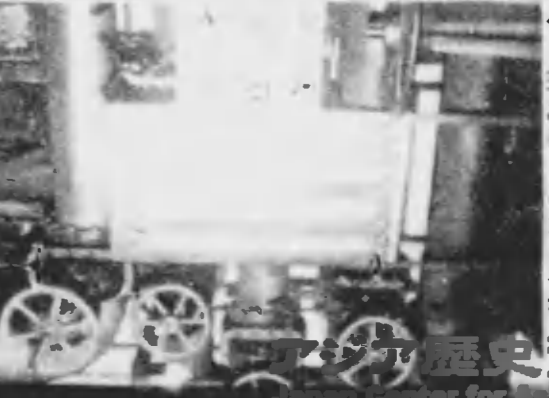
炭酸ガスと作りの更



気体の石油を高く

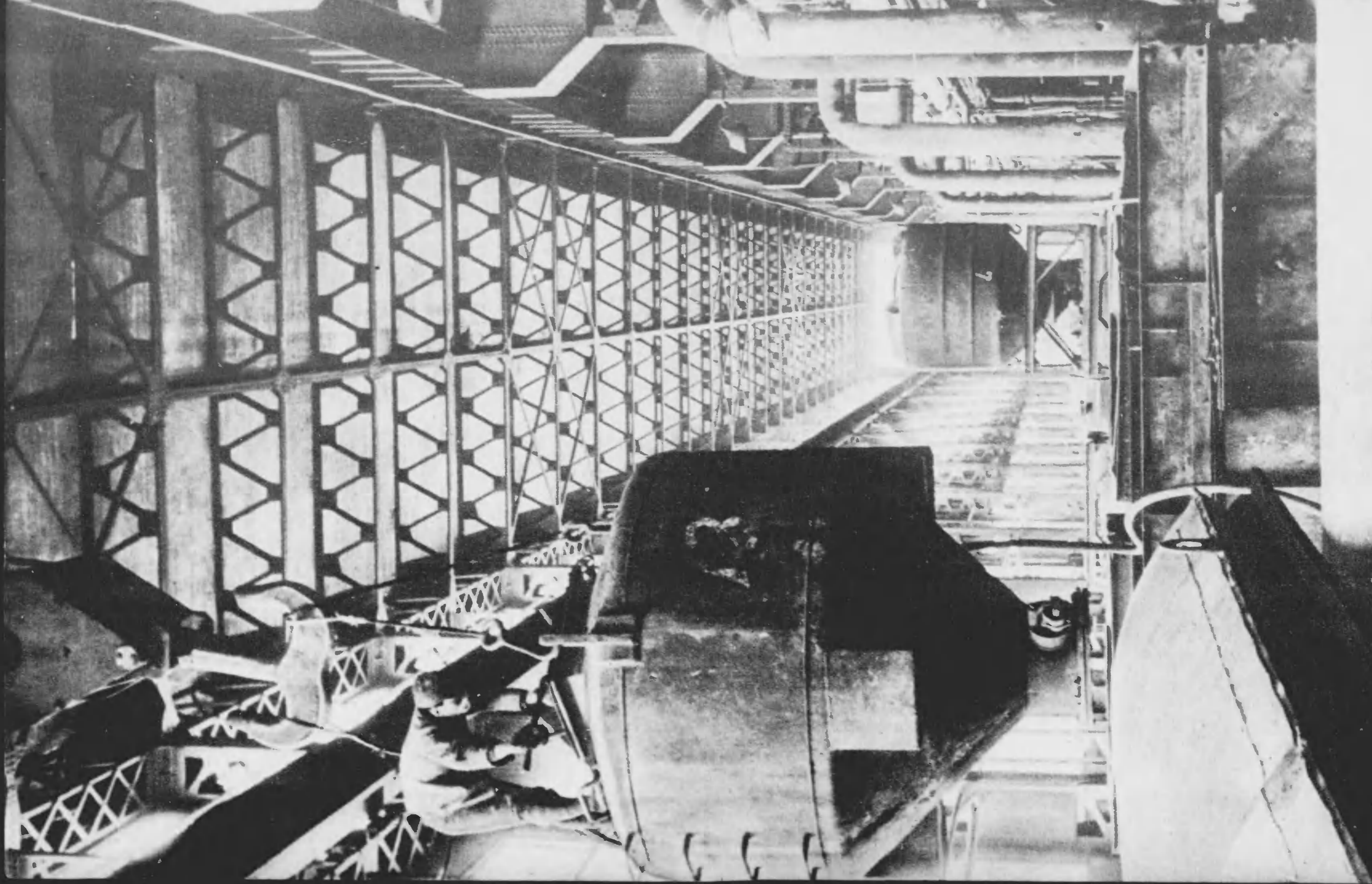


5. 精製するための装置



工場の運送機を動かす

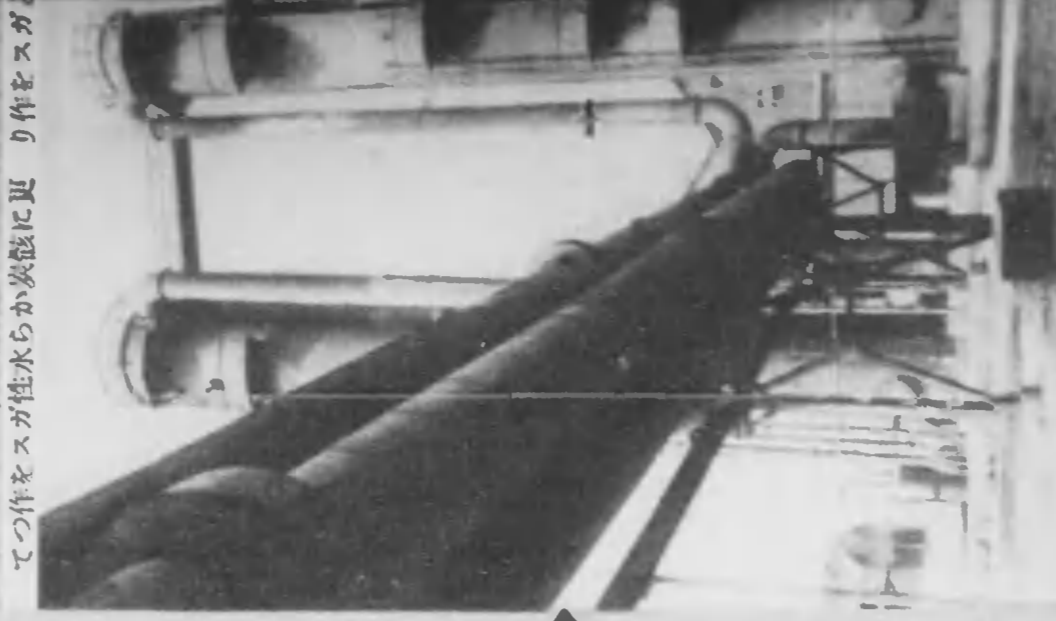
油石造人



るいに所各が備設を大老なんこはに油石造人 るなと油石の形飽氣とるす成合てつ送に場工のこでアバイバをれこ?



てい焼し蒸を炭石たれら送るか噴炭づまはで汰



てつ作をスガ性水らか炭酸に更り作をスガ



るす化液てつ送に塔却冷い高のこま油石の原



るまきでも油槽潤空航もンリンガ級高を重貴ばれ

器整調と器計の種各るす整調に的動自を轉運の原

曾後真真 影洲

スマトラの学校農場

井家園だより



「かういふ風に植えるのがよい」日本の家園指導員が親切に教えて下さるので、うのみこめました。

女子師範学校に十三才で入つたこの可愛い生徒が十六才で卒業すると、高等小学校の立派な先生になります。



撮影 スマトラ軍政監部

卒業してからの輝かしい前途は、百々たる大東洋の未来のやりに明るい。

新学期から日本のお姉さんが学校を主として、働きながら学んでおつしやると先生からきました。私たちスマトラの女学校でも、新しく農業實習や修身や教養などの科目が加へられ、戦争のお役に立つことを勉強してゐます。

オランダが治めてゐた時には、学校も少なくて私たちは勉強できませんでした。強い日本軍がオランダを退けてから、澤山の学校が開かれ、誰でも勉強できるやうになつたので、どんなに私たちが欣んでゐるか、見て戴きたいと思つて、スマトラの學都といはれる西海岸州パタン高原のパダンパンチヤン市にある軍政監部上級師範学校練成科と州立女子師範学校の生徒が元気一杯に學んでゐる姿をお贈りします。



軍政監部上級師範学校練成科で現地の先生が六ヶ月間の再訓練をうけます。生徒になつてアイウエオからやり直します。

田植をしてみてもうできるまでのお百姓さんの苦勞わかりました、と用部先生が申しました。

日本の先生から教はつた楽しい遊戯を、早くスマトラのロイヤに教へてやりたく、現地の先生は、生懸命です。



當割で位單落部



に平公は額擔分

區長を中心として各系統農業會が協力



ぞるげを果獲



割當は

國・地方長官・市町村長・部落區 實行組會長・個人

「各系統農業會が協力」

割當の上以當割 賞持二出供



政府がこん度米穀の増産及び供出獎勵に關する特別措置を決定し、供出の早期割當と供出の報奨制度を實施することになつたのも、さらに農家の方々の増産に對する熱意に應へ、その努力に酬い、今後ますます深刻になる食糧難に勝ち抜くためである

これを先質確保し、戦争を遂行し國民生活を維持してゆくためには、なほ、農家の方々に奮闘努力を願つて、悪天候や肥料、勞力の不足を克服し、さらに増産し、さらに多量に供出してもらう方法がない

幸ひわが國は、農家の方々の非常な努力で現在の配給を維持するのは決して困難ではないが、これからどんな天候がおこるかも分らず、また國民が各々、戦場で力一杯働くためには、その原動力の食糧が、ますます多量に必要である

戦ひの仕方に兵糧攻めといふ言葉があるやうに、食糧戦の勝敗が、戦争の大勢を決することには歴史にも例の多いことで、現在世界の交戦各國は、いづれも食糧問題には、非常に頭をなやましてゐる

供出米は 部落の共 責任で

同部 責任で

以下、政府が、非常に大きな實施上の困難に打撃して行くことにした特別措置の趣旨を説明し、農家の方々の新しい取組を願ふこととする

一、先づ割當量は、國家が必要とする消費量を基礎とし、たいがい本年作に近かつた昨年の實際總量に土地改良の効果や、また肥料不足などの積弊、消極兩面の事情を考慮して算定され、作付前に決定される

二、割當の單位は部落で、部落内の各戸は割當保持者共同責任を以て、供出するのである。即ち政府は先づ府縣に割當を、市町村より各部落に順次に割當するのである。部落内では地方長官の監督下に、區長、または實行組會長を中心とする協議を開展し、これでご各農家の分擔額を公平に定めるのである

三、この割當量は、國家の食糧増産計画の上から必要量を、つまり國家の米穀需要量であるから、一旦割當された以上、めづかに減産はできないが、事故の災害のため非常に減産したときとか、または耕地が工場敷地に轉換されたなどのやむを得ない事情が生じたときは、減額が認められる

四、供出米が一定量を越えたときは、政府は部落に獎勵金及び報奨金を交付する。もつとも村にない地主には及ばない

これら獎勵金と報奨金のことだが、現在肥料や農具の不足など、あらゆる困難条件下では、本年作を確保するにも、農家の苦心は並大抵ではない。しかも金肥が不足なため、米作を維持するためには、自給肥料の大増産にも、あらゆる手段をつくさなければならぬ。また、なん

でもさらだが、供出米も割當量の最後の段階、最後の五分が最も骨の折れるところである

これで、割當量の九割を超えたときは、超えた部分から割當量を減らすまで、生産者、即ち自作、小作の農家の供出米には、二石當り四十円、地主の供出米には、十五円の報奨金が交付されることになつた

また、この割當量を達成するのでも、農家にとつては、なかく容易ではないと思ふが、しかし現在食糧の如何は、國家の存続を左右するものであり、この際、農家の方々が身を以て困難に身身されれば、さらに増産の餘地もあると思はれる。また政府としては、農家の方々が郷土食を實行しても、自家用を叩出して供出されることを希望してゐるので、割當量以上に供出された米には、その大奮闘と犠牲に報いるため、思ひ切つた報奨制が設けられた。即ち、生産者の供出米に對しては、石當り百円、地主の供出米には、石當り七十五円の報奨金が交付されることになつたのである

これらの獎勵金や報奨金は、部落に交付されるから、部落内では、生産者と村にゐる地主の割當供出量に按分して配分することになる

だが、報奨金や獎勵金は、部落を單位として交付されるのであるから、割當保持者共同責任を以て、あくまで各自の責任を果し、何よりも部落の成績を上げることが大切である。例へば、非常に勤勉な人があつて、割當量より十石も多

く供出しても、ほかに不真面目な人があつて供

出量不足し、部落としては結局一石も割當を超過してゐなければ、一石分の報奨金はなし

か、もらへないことになる

また、供出を完遂すれば、残りの部分は農家の自由で、政府以外には購買はできないが、自分の家で食べてもよいし、都會にゐる息子や娘に贈つてもよい

なほ、都道府縣の割當量以上の供出分は、地方長官の努力に報いる意味から、必要に應じて割當保持者として適當配分してもよいことになつた

五、これまでも、供出割當についてはどこまでも報奨を確保しなければならなかつたが、今度は獎勵金や報奨金の制度もあるので、一般の割當をやる必要がある。これには、農家の方々の自勵心と報復つて、地方長官が市町村及び地方農業會の協力によつて、あくまで過剰を抑制してゐる。だが、その實行は、關係官民一同の至公至平な協力があつて、始めて達成されることはいふまでもない

政府は米の増産のほか、あらゆる手段を講じて主要食糧の不足を補はうとしてゐるのであるが、何といつても米が食糧の中心であるから、以上のやうな長期的な制度が樹立されたのである。なほまた、増産供出に特に功績があつた人には、農商大臣賞を以てその功に報いることも考へられてゐる

以上は、新しい制度のあらましだが、諸氏が競争増す頃には、今年度の割當量も決定されると思ふ。この制度が、農家の方々の闘心になつて、秋の収穫期には、また大きな飛躍が加はれんことを祈つてやまない

報奨金

割當量を突破した部落に、突破量に對し

不在地主 在村地主 供出米には 石當り七十五円

生産者 (自作・小作) 供出米には 石當り百円

報奨金、獎勵金は部落に交付されるが、個人が割當した米の量に依りて異なる

獎勵金

割當量の九割以上を完了した部落に

在村地主 在村地主 供出米には 石當り十五円

生産者 (自作・小作) 供出米には 石當り四十円

報奨金、獎勵金を貰へる部落は、當然獎勵金も貰へる

落部たし突破を當割

割當を突破した人々

割當だけに出した人々

割當は出せなかつたが九割以上出した人々

割當の九割以上を完了した部落

報奨金

獎勵金

獎勵金

獎勵金

電波高度計

皆さん、山登りよく知つてゐますね。山登りなして、「オイ、オイ」と呼ぶと、しばらくしてから「オイ、オイ」と向ふの山から聞えて來ますね。あれは「オイ」と呼んだときにできる音の波が向ふの山に當つて戻つて來るのです。山登りは向ふの山が遠いほど、音の往復する時間は長くなります。音が空気を傳つてゆく時間は、まづつてゐますから、山登りのまづつて來るまでの時間を測れば、逆に向ふの山までの距離が分ります

この原理を利用したものが電波高度計で、音の代りに電波を使ひます。つまり電波を使つて地上から飛行機までの高さを機上で測るわけですよ

普通の高度計でも、海からの飛行機の高さは測れますが、地上からの高さは測れません。ですからよく晴れた日にはこの普通の高度計があれば飛行機は飛べますが、いつも暗れた日は、かなり飛んでゐるわけにゆきません。雨や霧の悪い天気や夜などで先がまづつきり見えない中を飛行機が飛んでゆくためには、この電波高度計がいります

なぜならば、もし海からの高さだけしか分つてゐないと、いつ地面に墜つるか分りません。ことに山の多いところでは危険が多いし、夜など飛行場へ着陸するときにも、地上からの高さが分つてゐないと、どこでどう着陸してよいかわかりません。また海からの飛行機の高さが分つておれば、操縦も、やりやすくなります

つまり電波高度計をつけた飛行機には、電波を出すアンテナと、地上に當つてから戻つてくる電波を受けるアンテナがあつて、電波を出してから戻つて來るまでの時間をこの二つのアンテナで測つて、地面からの高さを測るわけですよ



この電波高度計が發明される前は、昔の山登り現象を使つた高度計も考へられましたが、音の傳がしい飛行機には適してゐませんでした。電波高度計なら、そんな心配は少しもありません

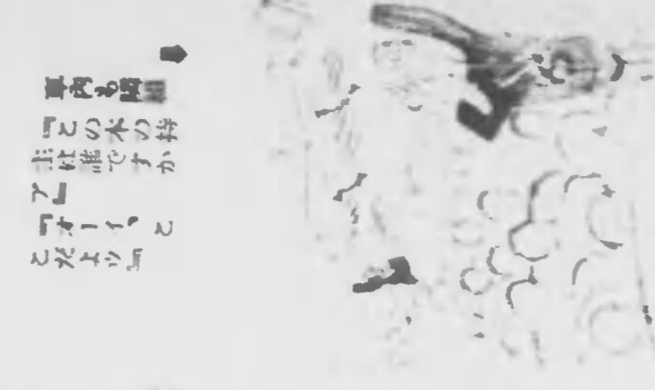
この電波高度計は、いま各國が一生懸命に研究してゐるラジオ・ロケーターと同じ原理のもので、ラジオ・ロケーターは地上から飛行機の飛んでゐる位置を測るのですが、電波高度計は飛行機から地面までの高さを測るところだけが異なるので

種

温床には露の苗がみこと出た。外んと真赤な
切れは血が滴るかと思はれるみづくしきだ。こ
れが伸びて青くなるよはら、そのやうである
増産班長の道太郎は大満足だ。班員の手での
苗がよく出たからだ。どこの家の苗も、今年から
思ひ切つて切換へることにした沖繩自産であり、
それと少しの太白、この一本建てだ。みんなよくも
紅赤を思ひ切つてくれたと道太郎は感激してゐる
紅赤は粉雪で身の黄色い。粟のやうにほくく
してゐて、葉の緑が、収量が少い。いまは質よ
り量の時代だ。贅澤な紅赤は断然やめ、かほりに
まづが収量の多い沖繩自産に切換へれば、段々
して四百貫が、いきなり八百貫か千貫になるので
ある。太白にして七、八百貫は樂に上れる。と
ちらも精進で、太白はやうまいが、沖繩と来た
ら、うまくない
味のことをやかましくいふ年輩者たちはこの切
換へには最初反対であつたが、道太郎などが熱心

に説いて納得させたのだ
ところが、苗が伸びてみて道太郎は、きもちを
つけた。ところどころあららに彼の家の苗場の隅に、ま
きもない紅赤の苗が、他の青い葉のなかに赤紫
の葉を伸ばし出したのである
疑ひもなく、それは父親の三平太のしわざに相
違なかつた。とすると、道太郎にしてみればもは
や班長は辭職ものだ
父親に詰め寄ると、しかし、三平太は澄ました
顔でぶっつと煙草の煙を吐きながら、
「おれの生きてゐるうちにやこの戦争は片づく
めまかな、だからおれの生きてゐるうちにこの紅赤
をまたつくるやうにもなるめまかな、だからと言
つて神を絶やしちやうとどろするな、おれは神罰
にまよひはつてゐるもろちや。毎年種蒔きにお
れはつくろわい
道太郎の血の気の多い顔が見ると、ききめてい
つた

近頃車内風景
清水 見



定額局事情
字交爪の血

アルミウムの劇的な親法研究に苦闘する大内博士はつ
ひに過度の疲労から研究の高度を目撃して倒れた。結果
も無く、ひなすら科擧に生きる愛弟子の田代貞三は、
商會議院の病室にまで押し入つて、瀕死の博士から研究の
最後の秘密を聞きとつてしまふ。博士は信託したが、博士
の研究は人々の努力によりついに工業化し、大増産の目標
は成つた。田代は己れの大業を達成すべくその成果を握り
て滿洲に去つた。一方、田代の許婚者三浦順子は、アルミ
に全身を捧げる貞三と、辯護士を起つていま州の控に飛ぶ
兄の情熱とに、初めて新しい女性の生き方をとり、自分
もまた飛行機工場に身を投ずる――
本映画は我が國産業の飛行機の増産に伴つてアルミウムの
製法を主題とした話、またヒココキと血の爪文字を軸とし
て倒れた前線勇士の叫びを信託として生きるこれらの人々
が、われ／＼に現代の生き方を示唆してゐる處、推展に傾
ひするものである



あつた！
あつた！

【問題】私の長男ほど
りも小さいときから身
體が弱く以前一度人に
動められて肝油を服せ
せましたところ、大變
效きまして見違へるや
うに丈夫になりました
ところが最近また少
し瘦せてまゐりました
ので、肝油のない折、
あちらこちらと問合せ
て、肝油球や肝油製劑
を手に入れて服させた
のですが、今度はあま
り效目がありません
それどころかかへつて
ますます弱つて来るや
うに思へます。薬は少
しも悪くなつてゐない
さうです。遣り方に
も十分注意してゐるの
ですが(妻は文筆)

【解答】お隣りで聞
いてみましたら、やは
り肝油は春の間の帳面
でした。これは戦時生
活の脆の益ともいふべ
き覺えでいろいろく
川事や思ひつきを氣が
ついたらと書き入れて
おいて、昔よい方法と
願つて手際よく片づけ
てゐるのです。仕事が
ふえて手の足りない時
下では家庭生活も時
間や物のムダのないや
うに「合理化」され合理化
されなければなりません。
お隣りではこれを
上手にやつてゐるので
す

決戦兄弟



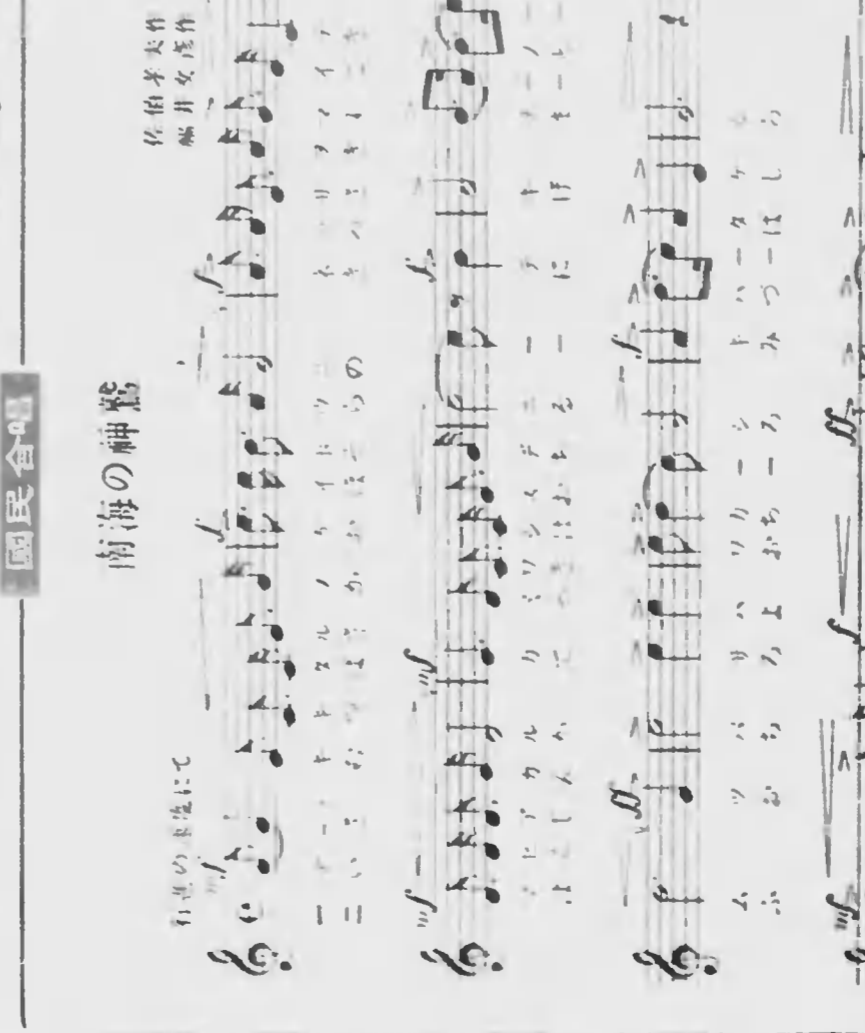
弾指子



出入窓



南海の神鷲



南海の神鷲

